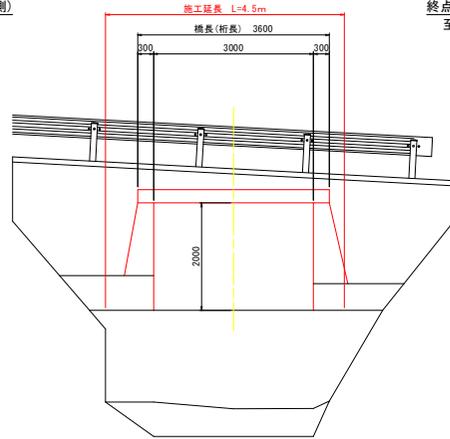


# 現橋一般図

側面図 S=1:50

起点側(右岸側)  
至 徳島市

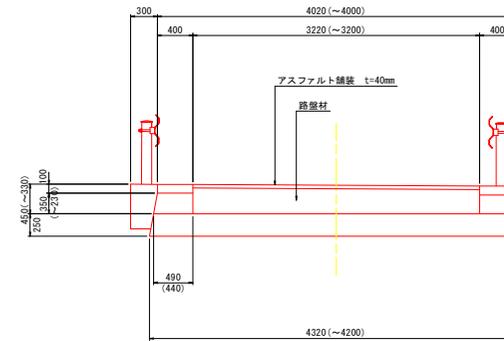


終点側(左岸側)  
至 那賀町

断面図 S=1:30

上流側

下流側



※ ( )内は、終点側を示す。

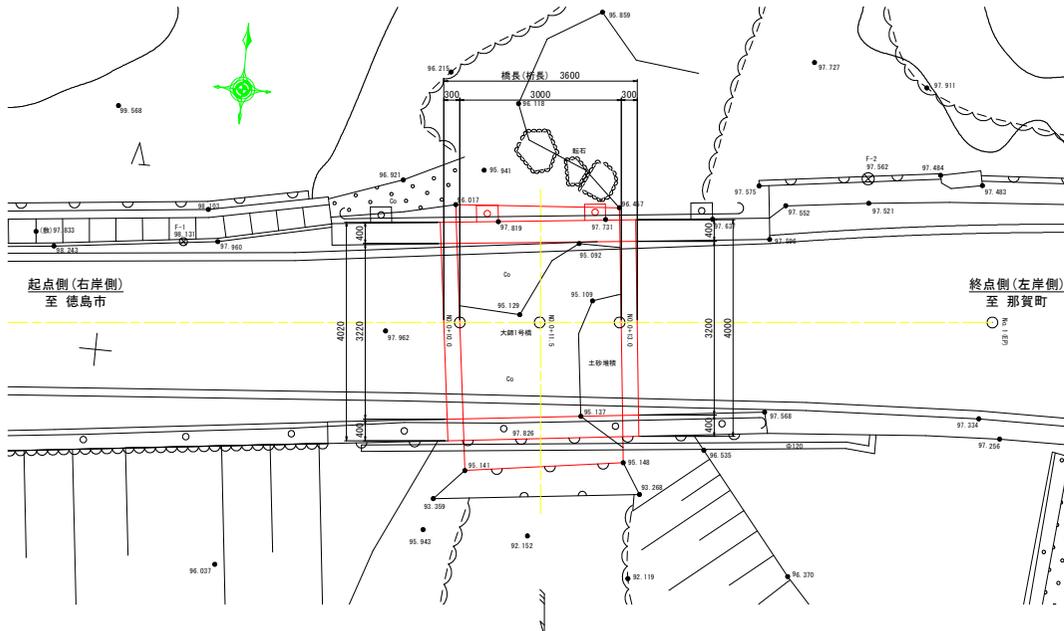
現橋諸元

橋梁名	大師1号橋
路線名	(主) 徳島上那賀線
設計活荷重	2等橋 (T-14t荷重)
橋長	3.60m
桁長	3.60m
支間長	3.30m (仮定)
幅員	有効: W=3.22m~3.20m、全幅: W=4.02m~4.00m
上部工形式	RC床版橋
下部工形式	重力式橋台
適用示方書	昭和39年通示
建設年次	1965年(昭和40年) (60年経過)
交差条件	河川

※橋梁台帳・定期点検調査・現地計測等を参考

DL=90.000

平面図 S=1:50



実施設計図面  
大師1号橋

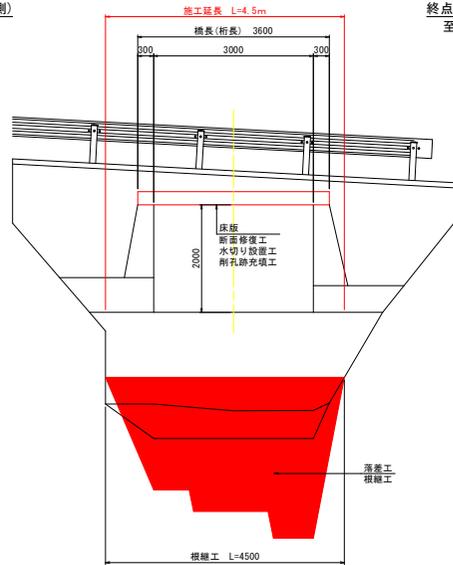
工事名	R7那土 徳島上那賀線(大師1号橋他) 那賀・寺内 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	現橋一般図		
縮尺	図示	図面番号	1 / 12
会社名			
事業所名	徳島県南総合県民局 県土整備部<那賀>		

# 補修対策一般図

側面図 S=1:50

起点側(右岸側)  
至 徳島市

終点側(左岸側)  
至 那賀町

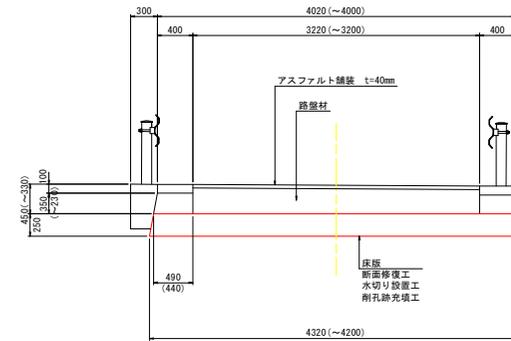


DL=90.000

断面図 S=1:30

上流側

下流側

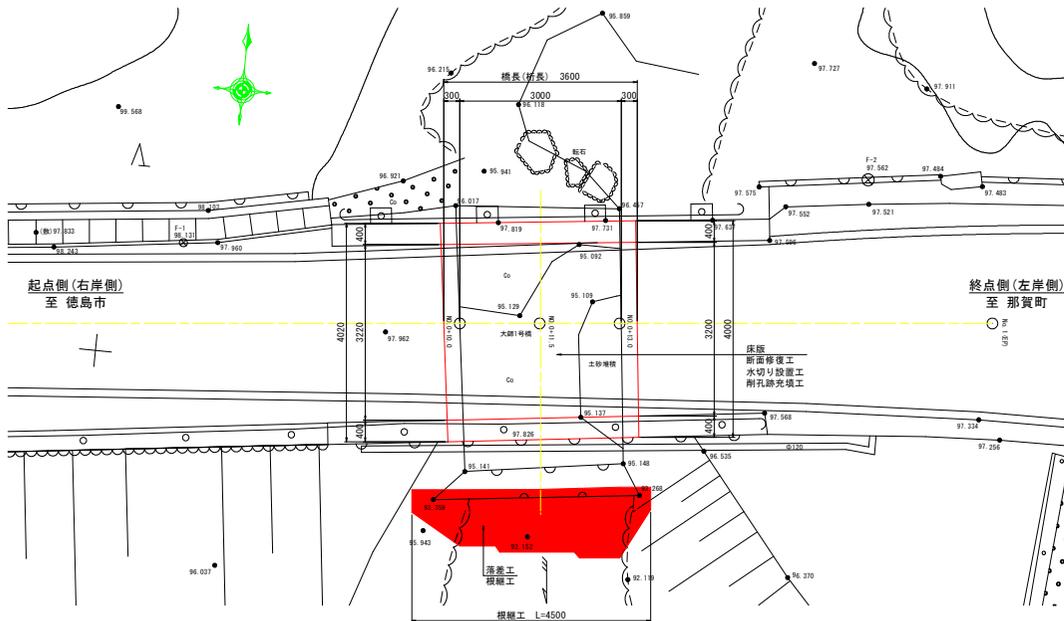


※ ( )内は、終点側を示す。

補修対策一覧

対策工	床版	断面修復工 (左官工法: ポリマーセメントモルタル) 水切り設置工 (EPDM系ゴム発泡体) 剛孔跡充填工 (無収縮セメント充填)
	落差工	根継工 (コンクリート打設)

平面図 S=1:50



## 実施設計図面 大師1号橋

工事名	R7那土 徳島上那賀線 (大師1号橋他) 那賀・寺内 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	補修対策一般図		
縮尺	図示	図面番号	2 / 12
会社名			
事業所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<那賀>		

# 上部工補修図(1/2)

(断面修復工)

床版下面 S=1:30

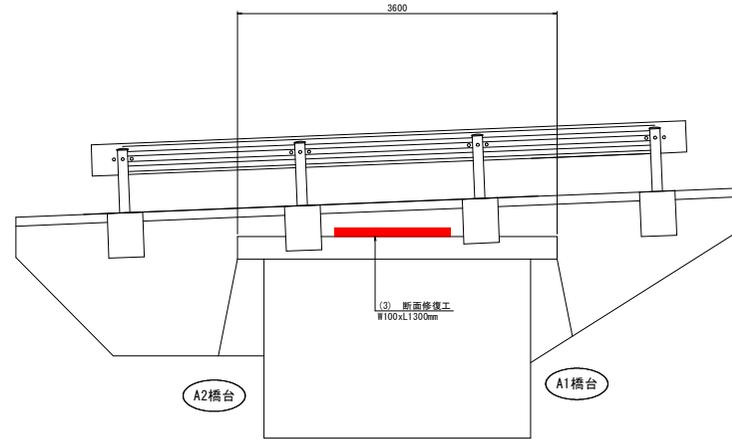
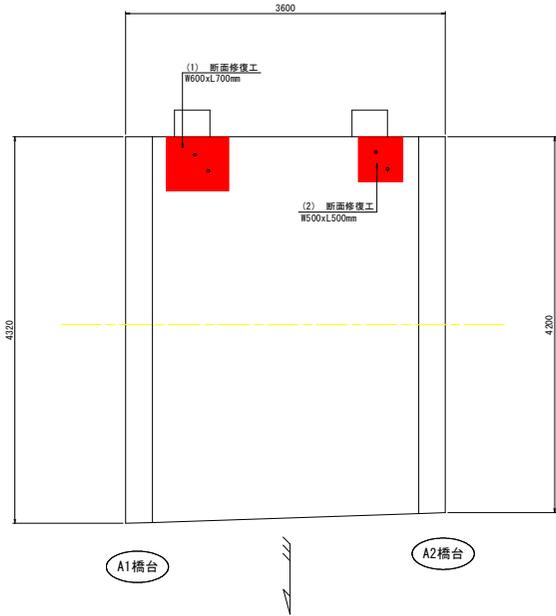
上流側側面 S=1:30

至 徳島市  
右岸側

至 那賀町  
左岸側

至 那賀町  
左岸側

至 徳島市  
右岸側

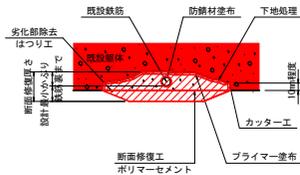


断面修復工(左官工法) : 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m <sup>3</sup> )	備考
1	0.60	0.70	0.07	0.029	床版
2	0.50	0.50	0.07	0.018	"
3	0.10	1.30	0.07	0.009	"

## 断面修復工(参考図)

(左官工法 : 鋼材かぶり薄い場合の断面修復工)

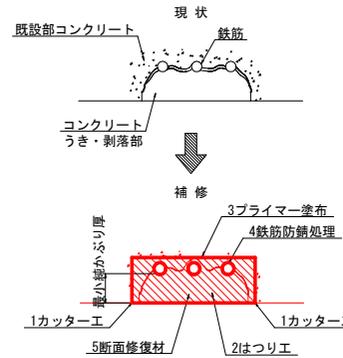


※設計最小かぶり  
「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(案)」を準用し、以下に示す設計最小かぶりを確保すること。

$$\text{最小かぶり} = \text{Max} \left[ \begin{array}{l} a: \text{最外縁鉄筋の呼び径} \\ b: \text{最大径の鉄筋の呼び径から最外縁鉄筋の呼び径を控除した値} \\ c: \text{気中の場合9mm 水中又は土中の場合17mm} \end{array} \right] + \text{施工誤差として3mm考慮する}$$

## 断面修復工

【左官工法】



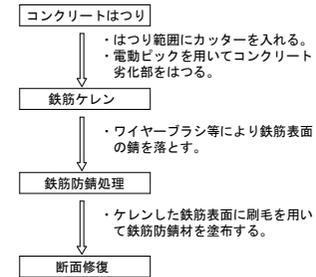
断面修復材量Vは下式より算出する。

$$V = W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$$

ここに、

- V : 断面修復材量
- W : 修復幅
- L : 修復長さ
- t : 修復厚
- 1.18 : ロス率

## 施工フロー図



- 1) ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りくわいにくいため、特に急急に埋め戻す必要がある。

## 注記

1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。  
ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
3. 修復厚さは、主鉄筋裏側までに若干の余裕を考慮して、70mmに設定している。  
ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
4. 状況によっては、はつり深さや範囲を変更する必要がある場合もあるが、構造上への影響が生じないように、監督員と十分協議を行って適切に対応すること。
5. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

## 実施設計図面

大師1号橋			
工事名	R7那士 徳島上那賀線(大師1号橋他) 那賀・寺内 橋梁補修工事		
路線名等	(主)徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	上部工補修図(1/2)		
縮尺	図示	図面番号	3 / 12
会社名			
事業所名	徳島県南総合県民局 県土整備部<那賀>		

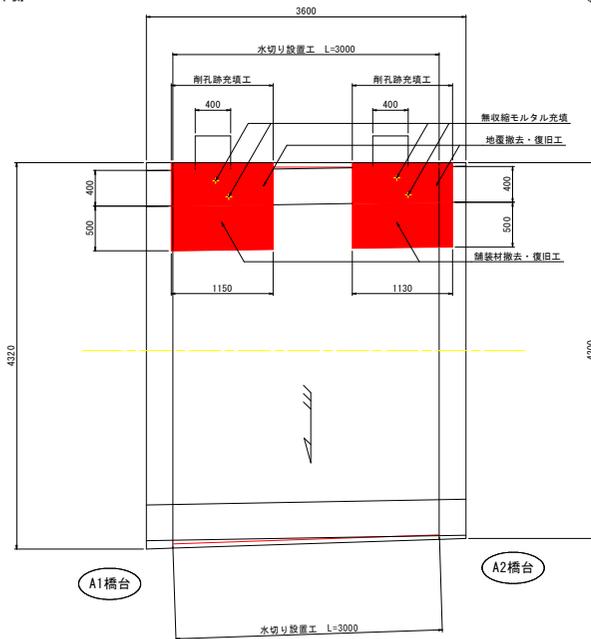
# 上部工補修図 (2/2)

## (水切り設置工、削孔跡充填工)

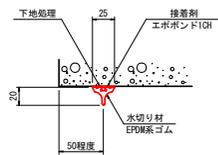
床版下面 S=1:30

至 徳島市  
右岸側

至 那賀町  
左岸側



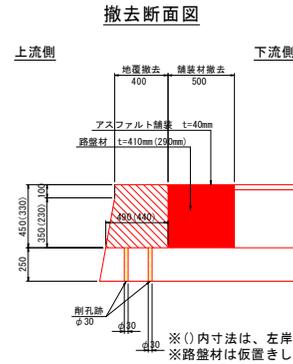
水切り設置工詳細図 S=1:3



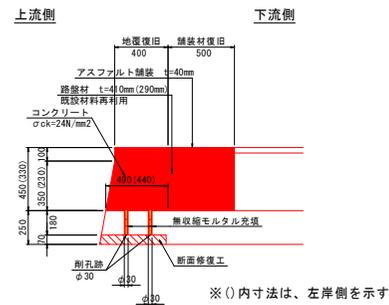
水切り設置工数量表 (1橋当たり数量)

名称	規格	算式	数量	備考
水切り材	EPDM系ゴム	3.00×2	6.00 m	ウォーターカッター、同等品

削孔跡充填工 S=1:20



復旧断面図



削孔跡充填工 撤去時数量表 (1.0橋当たり)

名称	規格	算式	数量	備考		
右岸側	舗装版切断工	アスファルト舗装 t=40mm	0.500×2+1.150	2.15 m		
	舗装版破砕撤去	小規模土工専用、路盤材含む	0.500×1.150	0.58 m <sup>2</sup>		
	地覆コン撤去工	無筋構造物、人力施工	(0.400×0.100+1/2×(0.400+0.490)×0.350)×1.150	0.23 m <sup>3</sup>		
	As設置撤去・処分費	アスファルト破砕機	0.500×1.150×0.040	0.02 m <sup>3</sup>	W=0.05t	
左岸側	舗装版切断工	アスファルト舗装 t=40mm	0.500×2+1.130	2.13 m		
	舗装版破砕撤去	小規模土工専用、路盤材含む	0.500×1.130	0.57 m <sup>2</sup>		
	地覆コン撤去工	無筋構造物、人力施工	(0.400×0.100+1/2×(0.400+0.440)×0.230)×1.130	0.15 m <sup>3</sup>		
	As設置撤去・処分費	アスファルト破砕機	0.500×1.130×0.040	0.02 m <sup>3</sup>	W=0.05t	
		Con設置撤去・処分費	無筋コンクリート	(0.400×0.100+1/2×(0.400+0.440)×0.230)×1.130	0.15 m <sup>3</sup>	W=0.35t

- 注記)
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
  2. 路盤材は復旧時に再利用するため、仮置きしておくこと。
  3. 地覆コンクリート撤去時にガードレール基礎を破損しないよう十分注意して施工を行うこと。必要であれば適切な養生を行うこと。
  4. 地覆コンクリート撤去時に既設鉄筋を切断しないよう、十分注意して作業すること。

削孔跡充填工 復旧時数量表 (1.0橋当たり)

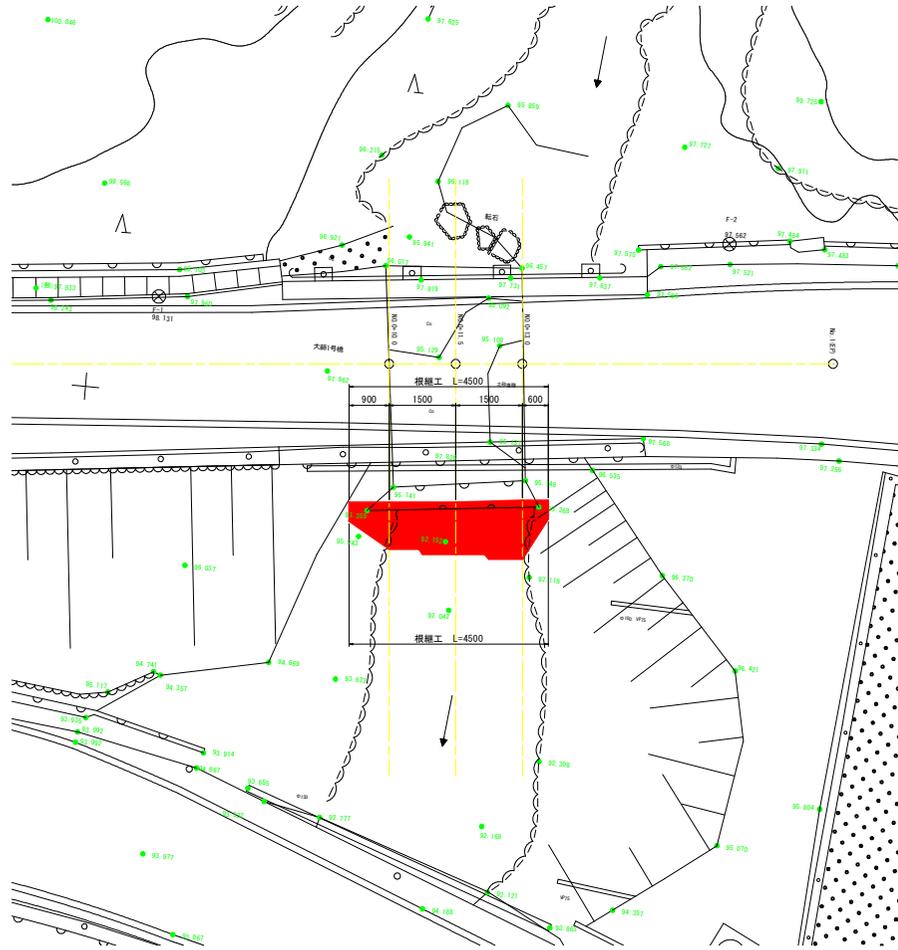
名称	規格	算式	数量	備考		
右岸側	無収縮モルタル充填	極小規模、無収縮モルタル	1/4×π×0.030 <sup>2</sup> ×0.180×2	0.0003 m <sup>3</sup>		
	地覆コンクリート	小型構造物、σck=24N/mm <sup>2</sup>	(0.400×0.100+1/2×(0.400+0.490)×0.350)×1.150	0.23 m <sup>3</sup>		
	地覆コン型枠	小型構造物	(0.100+0.450+0.350×1.0325)×1.150-(0.100+0.350×1.0325)×0.400	0.86 m <sup>2</sup>		
	路盤工	t=41cm	0.500×1.150	0.58 m <sup>2</sup>	3層施工	
左岸側	アスファルト舗装	車道部、t=4cm	0.500×1.150	0.58 m <sup>2</sup>	W=1.4m未満	
	無収縮モルタル充填	極小規模、無収縮モルタル	1/4×π×0.030 <sup>2</sup> ×0.180×2	0.0003 m <sup>3</sup>		
	地覆コンクリート	小型構造物、σck=24N/mm <sup>2</sup>	(0.400×0.100+1/2×(0.400+0.440)×0.230)×1.130	0.15 m <sup>3</sup>		
	地覆コン型枠	小型構造物	(0.100+0.330+0.230×1.0150)×1.130-(0.100+0.230×1.0150)×0.400	0.62 m <sup>2</sup>		
		路盤工	t=29cm	0.500×1.130	0.57 m <sup>2</sup>	2層施工
		アスファルト舗装	車道部、t=4cm	0.500×1.130	0.57 m <sup>2</sup>	W=1.4m未満

- 注記)
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
  2. 無収縮モルタルは床版下面の断面修復材硬化後に充填すること。
  3. 削孔跡に無収縮モルタルを充填する前に以下の処置を施しておくこと。
    - ・高圧洗浄等により削孔内面部の汚れをできるだけ除去しておく。
    - ・削孔内部の下地処理の代替作業として、筒形の金ブラシ等を用いて内部を掃除すること。
  4. 路盤材は、仮置きした既設材料を再利用すること。
  5. 既設地覆が配筋されていない場合は、差筋を配置する等、発注者と協議の上、適切な処置を行うこと。

### 実施設計図面 大師1号橋

工事名	R7那士 徳島上那賀線 (大師1号橋地) 那賀・寺内 橋梁補修工事		
路線名等	(主) 徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	上部工補修図(2/2)		
縮尺	図示	図面番号	4 / 12
会社名			
事業所名	徳島県那賀総合県民局 県土整備部<那賀>		

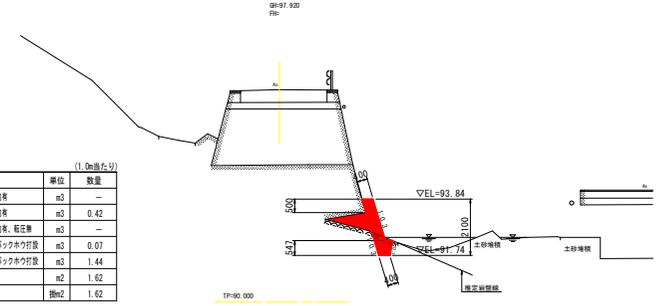
平面図 S=1:60



落差工補修図

断面図 S=1:100

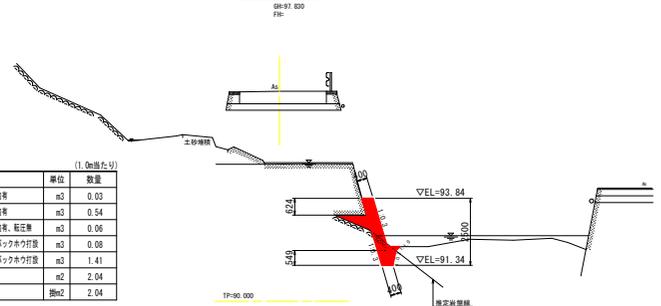
① NO.0+10.0



数量表 (1.0m幅あたり)

工種	細別	規格	単位	数量
作業土工	床掘	土砂、現場解体等	m <sup>3</sup>	—
	取込、現場解体等	m <sup>3</sup>	0.42	
	埋戻し	土砂、現場解体等、転圧等	m <sup>3</sup>	—
橋組工	埋戻しコンクリート	無収縮速乾、バックホウ打設	m <sup>3</sup>	0.07
	コンクリート	無収縮速乾、バックホウ打設	m <sup>3</sup>	1.44
	型枠	無収縮速乾物	m <sup>2</sup>	1.62
	足場工	標準積形足場	掛m <sup>2</sup>	1.62

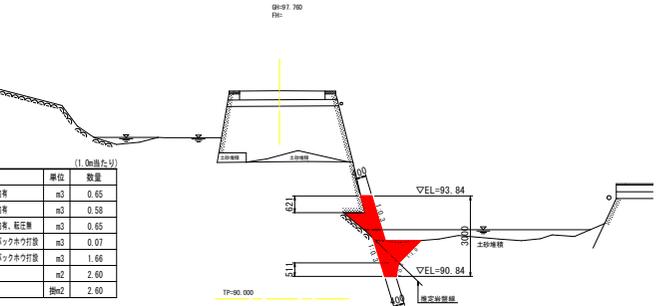
② NO.0+11.5



数量表 (1.0m幅あたり)

工種	細別	規格	単位	数量
作業土工	床掘	土砂、現場解体等	m <sup>3</sup>	0.03
	取込、現場解体等	m <sup>3</sup>	0.54	
	埋戻し	土砂、現場解体等、転圧等	m <sup>3</sup>	0.06
橋組工	埋戻しコンクリート	無収縮速乾、バックホウ打設	m <sup>3</sup>	0.08
	コンクリート	無収縮速乾、バックホウ打設	m <sup>3</sup>	1.41
	型枠	無収縮速乾物	m <sup>2</sup>	2.04
	足場工	標準積形足場	掛m <sup>2</sup>	2.04

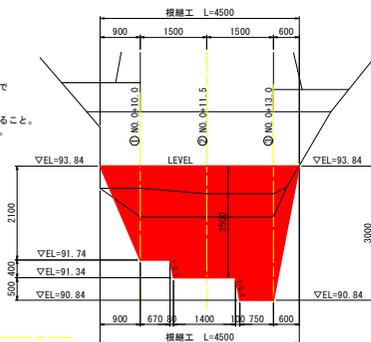
③ NO.0+13.0



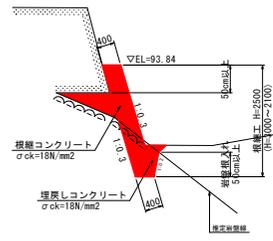
数量表 (1.0m幅あたり)

工種	細別	規格	単位	数量
作業土工	床掘	土砂、現場解体等	m <sup>3</sup>	0.05
	取込、現場解体等	m <sup>3</sup>	0.58	
	埋戻し	土砂、現場解体等、転圧等	m <sup>3</sup>	0.05
橋組工	埋戻しコンクリート	無収縮速乾、バックホウ打設	m <sup>3</sup>	0.07
	コンクリート	無収縮速乾、バックホウ打設	m <sup>3</sup>	1.66
	型枠	無収縮速乾物	m <sup>2</sup>	2.90
	足場工	標準積形足場	掛m <sup>2</sup>	2.90

正面図 S=1:60



根継工 S=1:60



※現場地に掘り付けられる両側端部は、岩着するために岩盤を露出させた上でコンクリートを打込むこと。  
 ※掘り付け部の形状に応じて、構造寸法を適切に現場で変更すること。  
 ※指定岩盤線の深さが現場と異なる場合は、根継工高さを適切に変更すること。  
 ※これらの対応に関しては、発注者と協議を行ってから作業を行うこと。

実施設計図面  
大師1号橋

工事名	R7那土 徳島上那賀線(大師1号橋他) 那賀・寺内 橋梁修繕工事		
路線名等	(主)徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	落差工補修図		
縮尺	図示	図面番号	5 / 12
会社名			
事業所名	徳島県那賀総合農林局 県土整備部<那賀>		

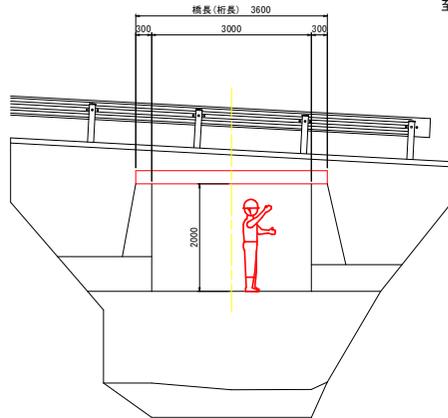
※洗掘部の空洞の状況によっては、コンクリートの充填性を確保するため、適切に対応すること。  
 (高流動化を図る混和材を使用する、落差工洗掘部のコンクリート不陸を整形する等。)  
 ※橋梁直下等の堆積土砂は、作業に支障が生じないよう移動させておくこと。

# 施工要領図(1/2) (参考図)

(橋梁本体補修時)

側面図 S=1:50

起点側(右岸側)  
至 徳島市

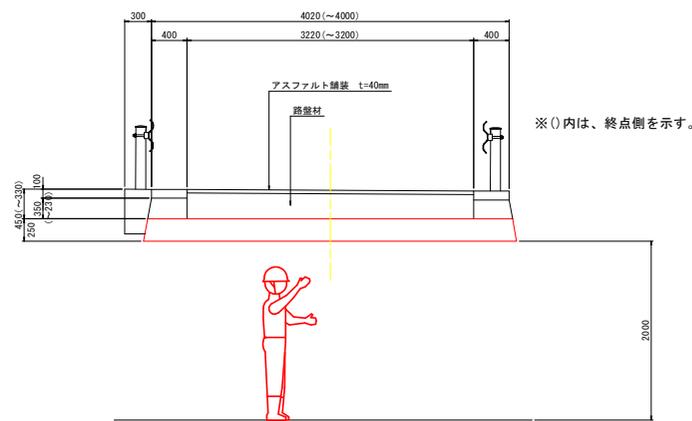


終点側(左岸側)  
至 那賀町

断面図 S=1:30

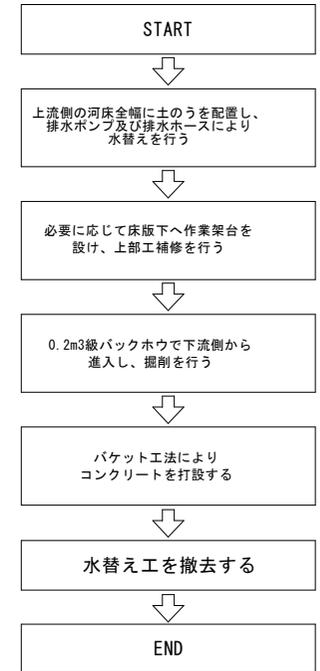
上流側

下流側



※( )内は、終点側を示す。

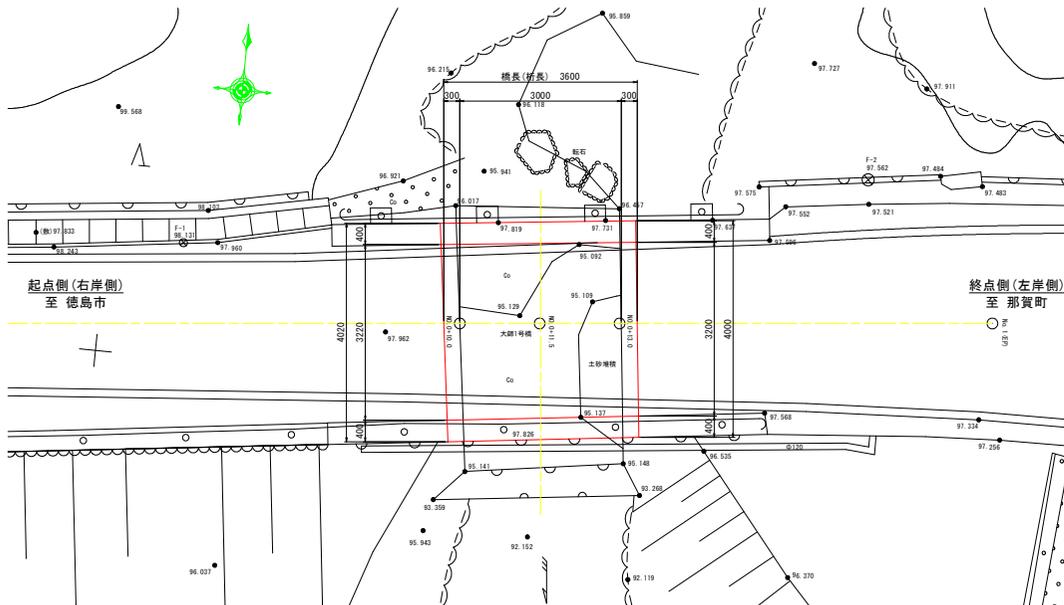
施工フロー図



※床版下空間高さが2m程度であるため、床版下面の補修作業に安全に実施できるよう、必要であれば簡易な作業架台を設けること。  
※万が一、降雨等により河川の増水が懸念される場合は、速やかに工事を中止し、必要に応じて簡易作業架台の解体を行うこと。

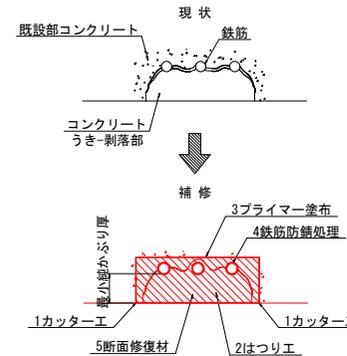
DL=90.000

平面図 S=1:50



断面修復工

[左官工法]

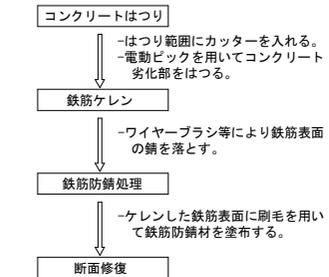


断面修復材量Vは下式より算出する。  
 $V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$   
ここに、  
V : 断面修復材量  
W : 修復幅  
L : 修復長  
t : 修復厚  
1.18 : ロス率

【注記】

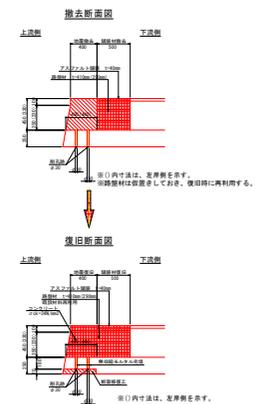
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。  
ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。  
ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
3. 修復厚さは、主鉄筋裏側までに若干の余裕を考慮して、70mmに設定している。  
ただし、状況によっては、はつり深さや範囲を変更する必要がある場合もあるが、構造上への影響が生じないように、監督員と十分協議を行って適切に対応すること。
4. 状況によっては、はつり深さや範囲を変更する必要がある場合もあるが、構造上への影響が生じないように、監督員と十分協議を行って適切に対応すること。
5. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

施工フロー図



- 1) ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りにくいため、特に入念に埋め戻す必要がある。

削孔跡充填工



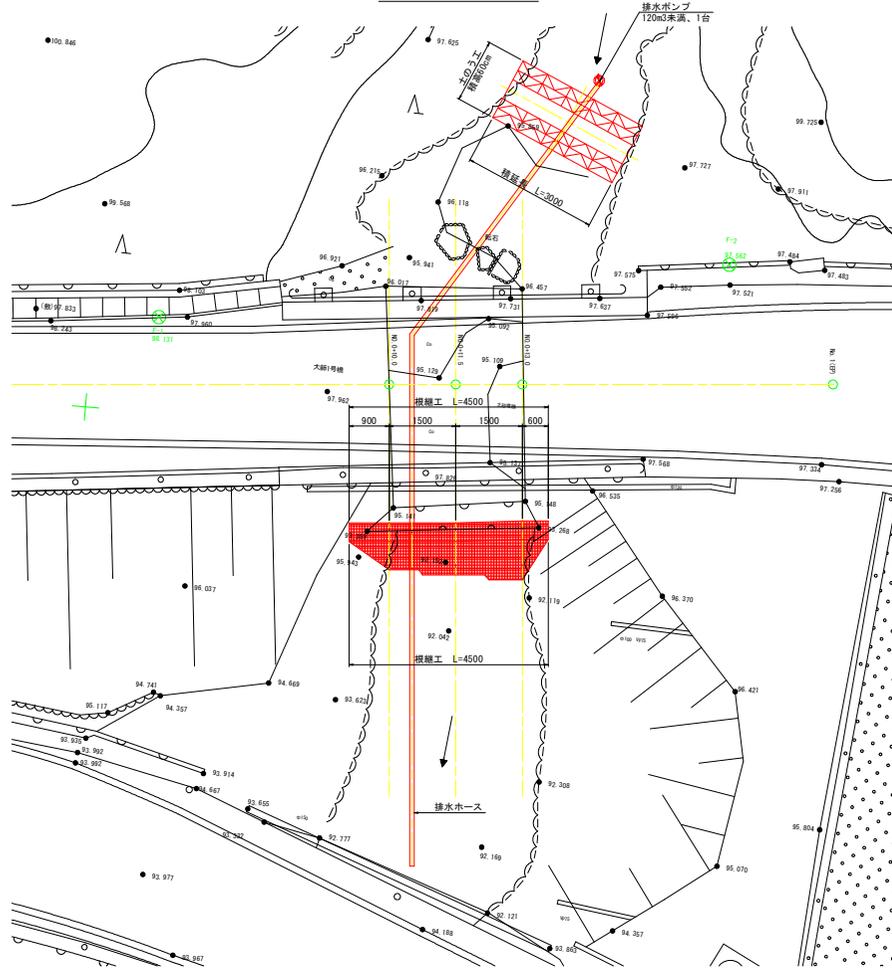
実施設計図面  
大師1号橋

工事名	R7那土 徳島上那賀線(大師1号橋他) 那賀・寺内 橋梁補修工事		
路線名等	(主) 徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	施工要領図(1/2) (参考図)		
縮尺	図示	図面番号	6 / 12
会社名			
事業所名	徳島県那賀総合県民局 県土整備部<那賀>		

# 施工要領図(2/2) (参考図)

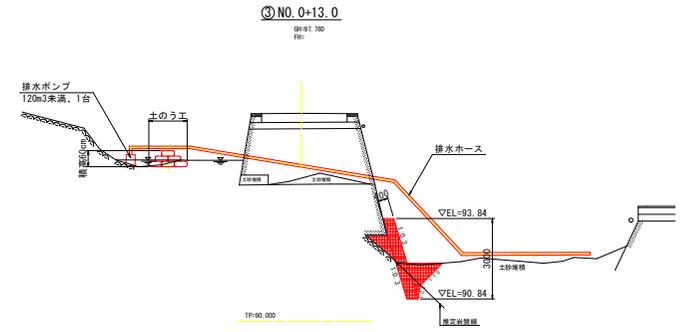
## (落差工補修時)

平面図 S=1:60



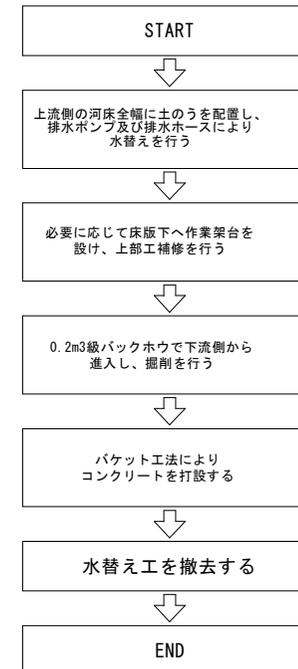
※排水ポンプの吐口は作業の支障とならないよう下流側へ導くこと。

断面図 S=1:100



※排水ポンプの吐口は作業の支障とならないよう下流側へ導くこと。

### 施工フロー図

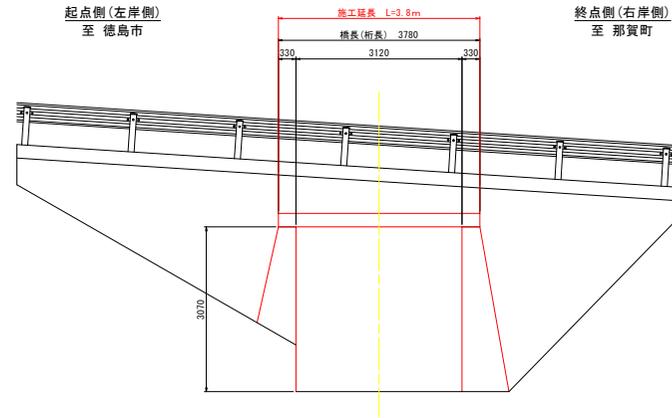


### 実施設計図面

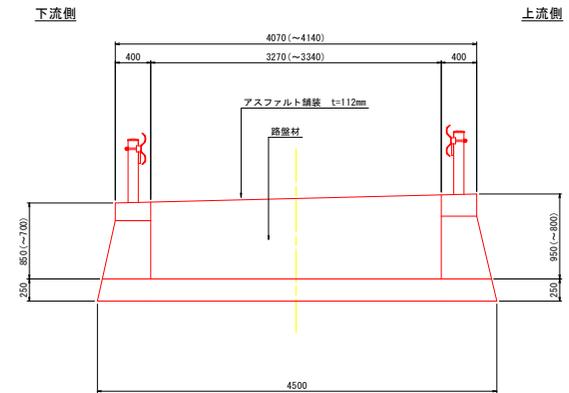
工事名	R7那土 徳島上那賀線(大師1号橋) 那賀・寺内 橋梁補修工事		
路線名等	(主)徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	施工要領図(2/2)(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	7 / 12
会社名			
事業所名	徳島県那賀総合県民局 県土整備部<那賀>		

# 現橋一般図

側面図 S=1:50



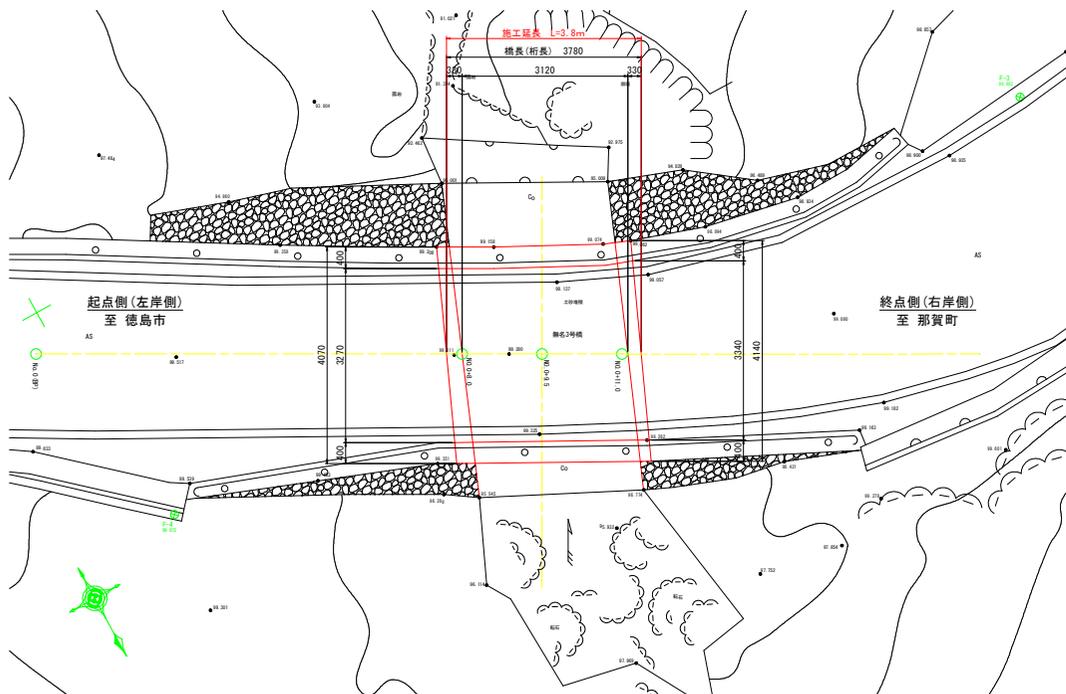
断面図 S=1:30



※ ()内は、終点側を示す。

DL=92.000

平面図 S=1:50



現橋諸元

橋梁名	無名3号橋
路線名	(主) 徳島上那賀線
設計活荷重	不明
橋長	3.78m
桁長	3.78m
支間長	3.45m (仮定)
幅員	有効: W=3.27m~3.34m、全幅: W=4.07m~4.14m
上部工形式	RC床版橋
下部工形式	重力式橋台
通用示方書	不明
架設年次	※推定: 1965年(昭和40年) (60年経過)
交差条件	河川

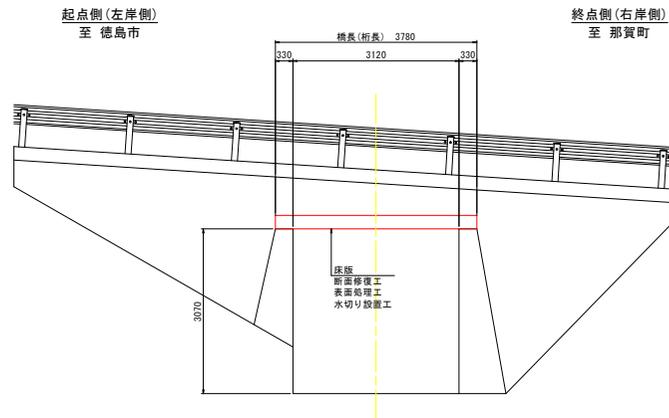
※橋梁台帳・定期点検調書・現地計測等を参考

実施設計図面  
無名3号橋

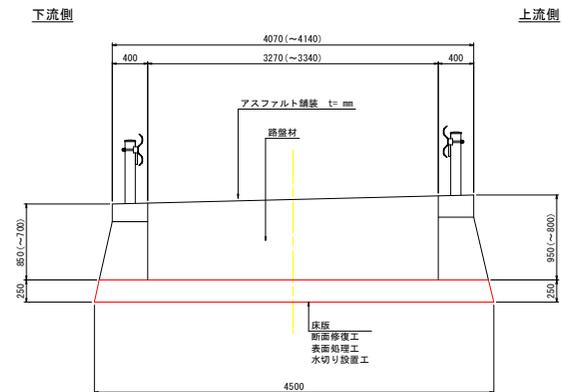
工事名	R7那土 徳島上那賀線(大跡1号橋他) 那賀・寺内 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	現橋一般図		
縮尺	図示	図面番号	8 / 12
会社名			
事業所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<那賀>		

# 補修対策一般図

側面図 S=1:50



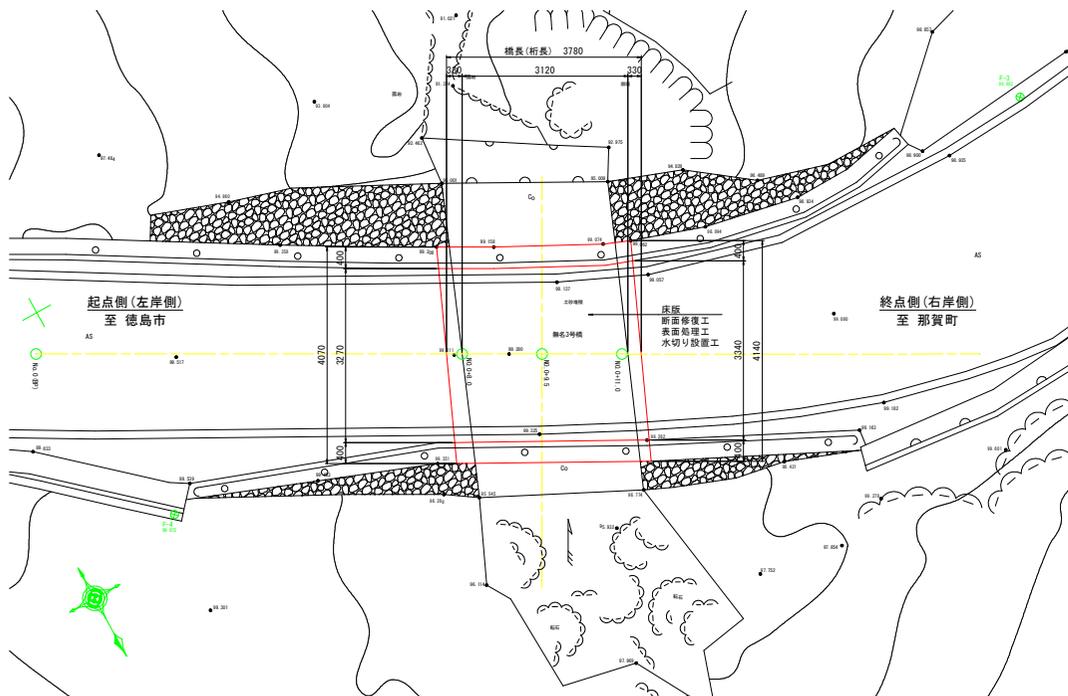
断面図 S=1:30



※()内は、終点側を示す。

DL=92.000

平面図 S=1:50



補修対策一覧

対策工	床版	断面修復工 (左官工法: ポリマーセメントモルタル)
		表面処理工 (表面含浸工: 重碳酸リチウム併用型)
		水切り設置工 (EPM系ゴム発泡体)

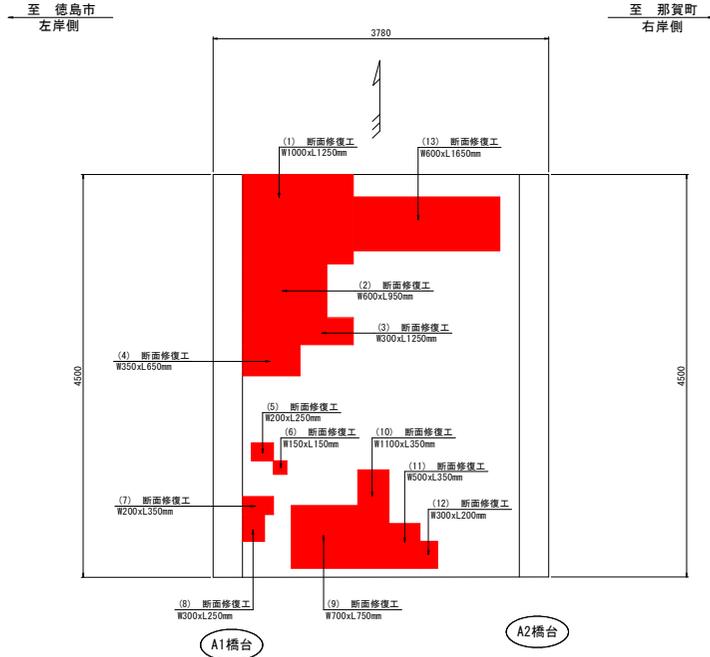
## 実施設計図面 無名3号橋

工事名	R7那土 徳島上那賀線 (大跡1号橋他) 那賀・寺内 橋梁修繕工事		
路線名等	(主) 徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	補修対策一般図		
縮尺	図示	図面番号	9 / 12
会社名			
事業所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<那賀>		

# 上部工補修図(1/2)

## (断面修復工)

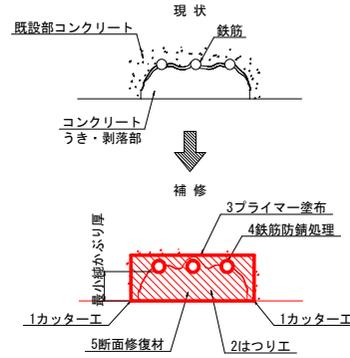
床版下面 S=1:30



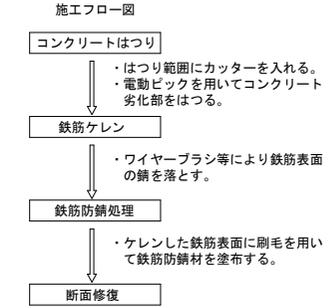
断面修復工(左官工法): 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(n3)	備考
1	1.000	1.250	0.060	0.075	床版
2	0.600	0.950	0.060	0.034	"
3	0.300	1.250	0.060	0.023	"
4	0.350	0.650	0.060	0.014	"
5	0.200	0.250	0.060	0.003	"
6	0.150	0.150	0.060	0.001	"
7	0.200	0.350	0.060	0.004	"
8	0.300	0.250	0.060	0.005	"
9	0.700	0.750	0.060	0.032	"
10	1.100	0.350	0.060	0.023	"
11	0.500	0.350	0.060	0.011	"
12	0.300	0.200	0.060	0.004	"
13	0.600	1.650	0.060	0.059	"

### 断面修復工 [左官工法]



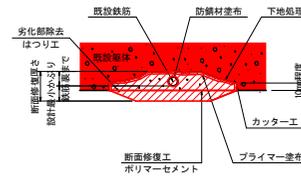
断面修復材量Vは下式より算出する。  
 $V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$   
 ここで、  
 V : 断面修復材量  
 W : 修復幅  
 L : 修復長さ  
 t : 修復厚  
 1.18 : ロス率



- 1) ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りこくため、特に入念に埋め戻す必要がある。

### 断面修復工(参考図)

(左官工法: 鋼材かぶり薄い場合の断面修復工)



※設計最小かぶり  
 「PAE系ポリマーセメントモルタルを用いたコンクリート構造物の補修・補強に関する設計・施工マニュアル(第2版)」を準用し、以下に示す設計最小かぶりを確保すること。

$$\text{最小かぶり} = \text{Max} \begin{cases} a: \text{最外縁鉄筋の呼び径} \\ b: \text{最大径の鉄筋の呼び径から最外縁鉄筋の呼び径を控除した値} \\ c: \text{気中の場合} 30\text{mm} \text{ 水中又は土中の場合} 17\text{mm} \end{cases} + \text{施工誤差として} 3\text{mm} \text{を考慮する}$$

#### 注記

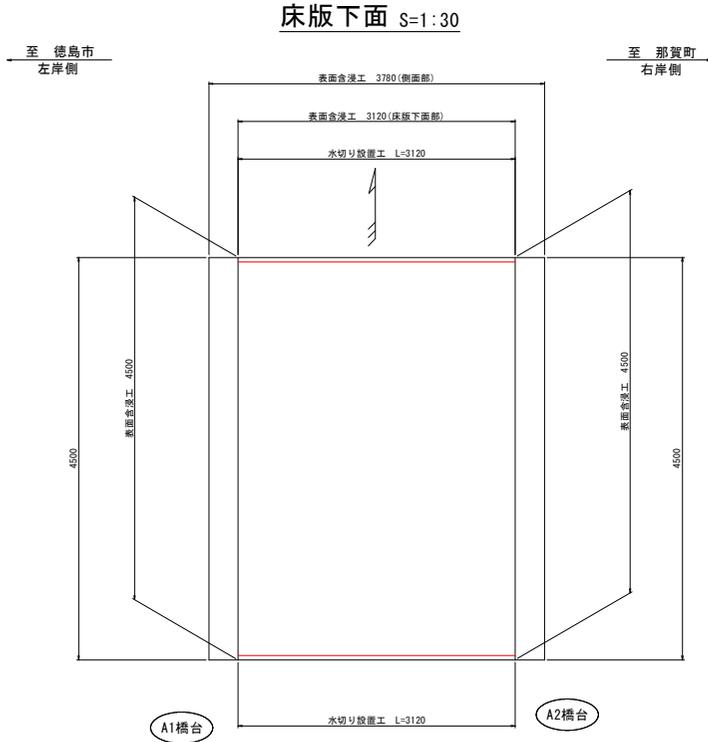
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
3. 修復厚さは、主鉄筋表側までに若干の余裕を考慮して、60mmに設定している。ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
4. 状況によっては、はつり深さや範囲を変更する必要がある場合もあるが、構造上への影響が生じないように、監督員と十分協議を行って適切に対応すること。
5. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

### 実施設計図面 無名3号橋

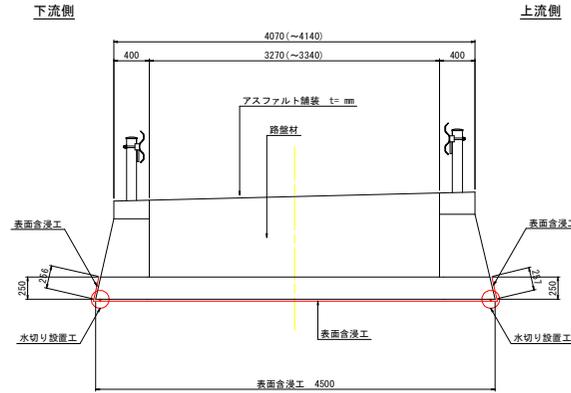
工事名	R7那土 徳島上那賀線(大跡1号橋他) 那賀・寺内 橋梁補修工事		
路線名等	(主)徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	上部工補修図(1/2)		
縮尺	図示	図面番号	10 / 12
会社名			
事業所名	徳島県南部総合県民局 県土整備部<那賀>		

# 上部工補修図(2/2)

(水切り設置工、表面含浸工)

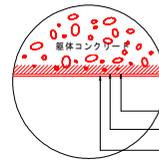


断面図 S=1:30



※()内は、終点側を示す。

## 表面含浸工 (亜硝酸リチウム併用型)



下地処理  
プライマー：亜硝酸リチウム系表面含浸材 プロコンガードプライマー(同等品) 標準使用量=0.40kg/m<sup>2</sup>(塩化物イオン含有量2.0kg/m<sup>2</sup>未満)  
表面含浸材：シラン・シロキサン系表面含浸材 プロコンガードS(同等品) 標準使用量=0.18kg/m<sup>2</sup>

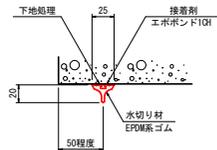
### 施工手順



#### 注記

- 下地処理ではワイヤーブラシ、ディスクサンダー等で、コンクリート表面の汚れを清掃する。
- 表面含浸材(プロコンガードS)の塗布は、コンクリート表面水分率が6%以下を確認して行うこと。
- 含浸工はプロコンガードシステムSを参考に示すが、別途製品を使用する場合は、同等以上の機能効果を有する製品を使用し、それに従うこと。

## 水切り設置工詳細図 S=1:3



水切り設置工数量表 (1橋当たり数量)

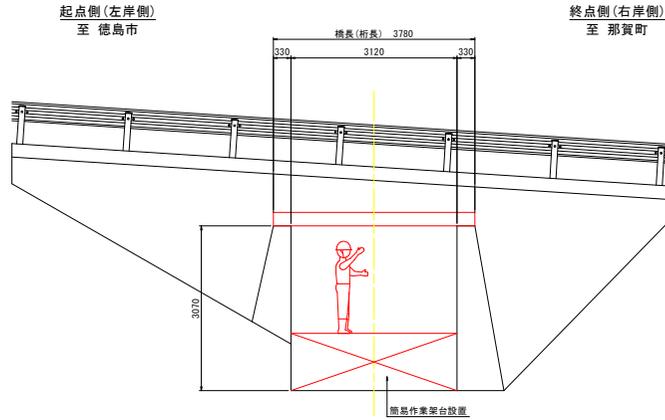
名称	規格	算式	数量	備考
水切り材	EPDM系ゴム	3.12×2	6.24 m	ウォーターカッター、同等品

### 実施設計図面 無名3号橋

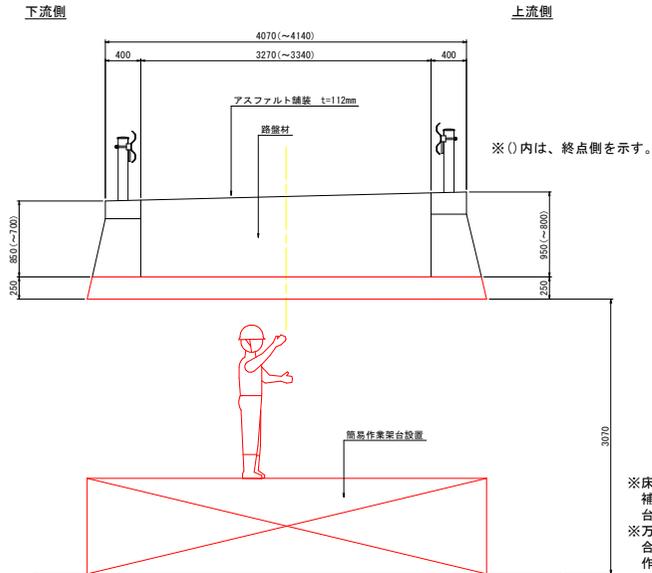
工事名	R7那土 徳島上那賀線(大跡1号橋他) 那賀・寺内 橋梁補修工事		
路線名等	(主)徳島上那賀線		
工事箇所	那賀郡那賀町寺内		
図面名	上部工補修図(2/2)		
縮尺	図示	図面番号	11 / 12
会社名			
事業所名	徳島県南総合県民局 県土整備部<那賀>		

# 施工要領図 (参考図)

側面図 S=1:50

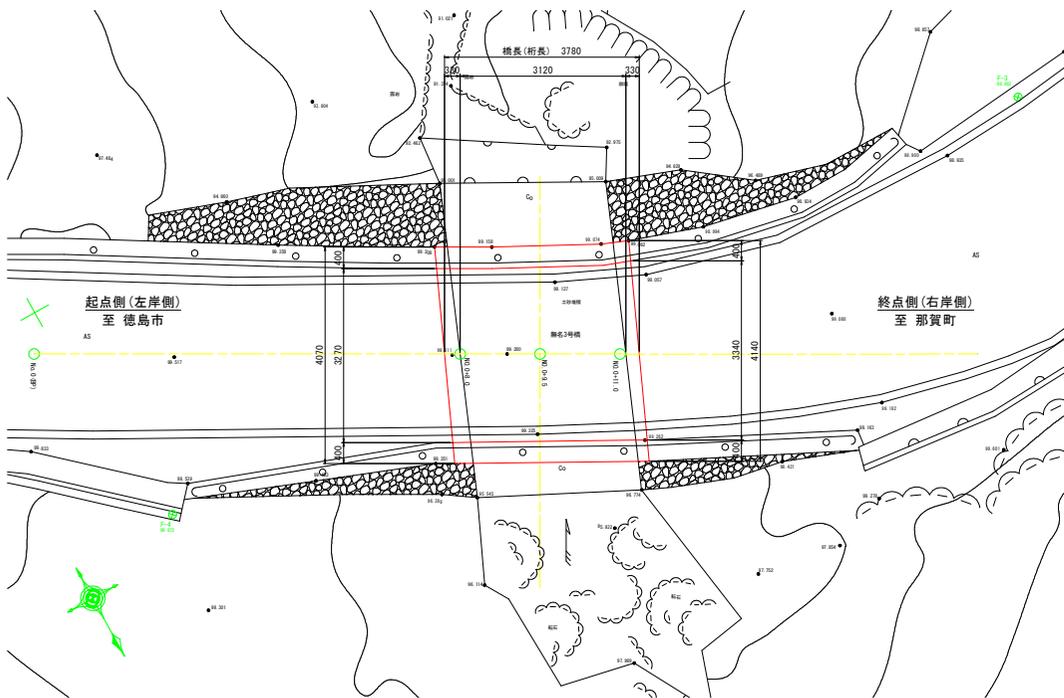


断面図 S=1:30

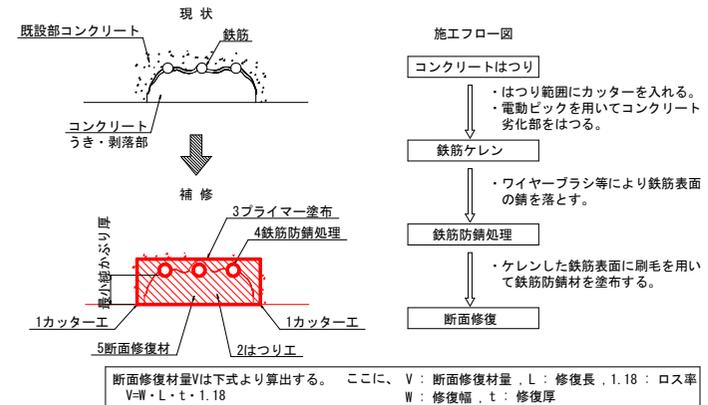


※床版下空間高さが3m程度であるため、床版下面の補修作業を安全に実施できるよう、簡易な作業架台を設けること。  
※万が一、降雨等により河川の増水が懸念される場合は、速やかに工事を中止し、必要に応じて簡易作業架台の解体を行うこと。

平面図 S=1:50



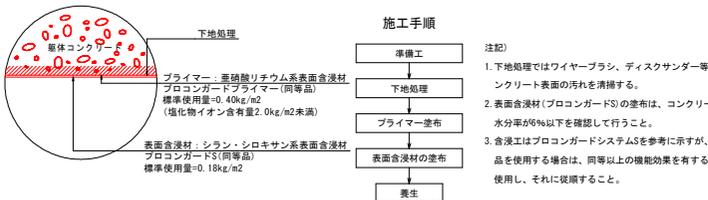
断面修復工  
【左官工法】



- 1) ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。  
・電動ピックを用いてコンクリート劣化部をはずす。
- 3) 露出した鉄筋の背面側には、断面修復材が回りこくため、特に入念に埋め戻す必要がある。

- (注記)
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
  2. 断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
  3. 修復厚さは、主鉄筋裏側まで若干の余裕を考慮して、70mmに設定している。ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
  4. 状況によっては、はつり深さや範囲を変更する必要がある場合もあるが、構造上への影響が生じないように、監督員と十分協議を行って適切に対応すること。
  5. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

表面含浸工  
(亜硝酸リチウム併用型)



実施設計図面  
無名3号橋

工事名	R7那土 徳島上那賀線 (大跡1号橋他) 那賀・寺内 橋梁修繕工事
路線名等	(主) 徳島上那賀線
工事箇所	那賀郡那賀町寺内
図面名	施工要領図 (参考図)
縮尺	図示 図面番号 12 / 12
会社名	
事業所名	徳島県那賀総合農林局 県土整備部<那賀>